

才の御祭老塔宮奉獻古八坂御大輔亦奉獻の御御鏡」
應永十三年降臨田御大輔御德伏御鏡日天照御城大總御
御鏡の無窮御所心山由神武天皇入道御命を以て紀伊國造となし給ふの時神鏡を名草

御鏡の無窮御所心山由神武天皇入道御命を以て紀伊國造となし給ふの時神鏡を名草
御鏡の無窮御所心山由神武天皇入道御命を以て紀伊國造となし給ふの時神鏡を名草

御鏡の無窮御所心山由神武天皇入道御命を以て紀伊國造となし給ふの時神鏡を名草
御鏡の無窮御所心山由神武天皇入道御命を以て紀伊國造となし給ふの時神鏡を名草

元
官幣大社
日 前 神 宮
國 懸 神 宮
御鎮座畧記

日 前 神 宮
國 懸 神 宮
御鎮座畧記

御 神 鏡

日 前 神 宮
國 懸 神 宮
御鎮座畧記

ひのくまくにかかすじんぐう にちぜんぐう
日前國懸神宮(日前宮)御鎮座畧記

和歌山市秋月鎮座

日 前 神 宮

祭 神 日 前 大 神 相 殿 思 兼 命
石 凝 姥 命

國 懸 神 宮

祭 神 國 懸 大 神 相 殿 玉 祖 命
明 立 天 御 影 命

御 由 緒

謹みて按するに日前大神國懸大神は 天照陽乃大神の前靈に座しまして其の稜威名狀すべからざるなり太古 天照大神の天の岩窟に幽居まし、時群神憂ひ迷ひ手足措く所を知らず諸神思兼神の議に従ひて種々の幣帛を備へ 大御心を慰め和はし奉るに當り石凝姥命天香山の銅を採りて大御神の御像を鑄造し奉る。

これ伊勢大神宮奉祀の八咫鏡 日前神宮奉祀の日像鏡 國懸神宮奉祀の日矛鏡となり而して天孫降臨し給ふに當り日像鏡日矛鏡を以て紀伊國造となし給ふの時神鏡を名草寶祚の無窮を祈らしめ 神武天皇天道根命を以て紀伊國造となし給ふの時神鏡を名草郡毛見郷に奉祀す毛見の濱の宮是れなり 垂仁天皇十六年神詔に據りて同郡萬代官に遷し奉り永く鎮座の地として今に至れり是を以て日前神宮奉祀の神の御名を日前大神と稱へ奉り國懸神宮奉祀の神の御名を國懸大神と稱へ奉る共に 天照大神と御同體に座しますなり故に紀氏歴代奉仕し上下の尊崇殊に厚く一般には日前宮と稱して親みを持ち今に至る。

然るに中世御炎上の事あり加ふるに天正の兵亂に侵されて境内神殿とも甚だしく荒廢したりしを南龍公入國の後廢を興し社殿を建立せられ明治四年神格の制を治定さる、や勅して官幣大社に列し以て敬神尊祖の大義を示し給へり然れとも社殿其の他の施設尙未だ往時を忍ぶに足らず大正八年國費を以て境内建物全部の改善工事を施工せられ大正十五年三月を以て工を完うす。

御 神 德

日前宮は紀伊之國一之宮にして天照陽乃大神を祀る 日前國懸大神はその御別名にましまして太陽の御徳を蒙り生とし生ける凡てのものに御蔭を戴き生々發展をなし人々の縁を結びうけい(結婚)の徳をさづけ生活の基本を守り給ひ古来より深き信仰を持つ

境内攝末社

攝社 天道根神社

祭神 天道根命

御由緒

天孫御降臨の時天道根命從臣となり齋祭す 其の後 神武天皇即位二年春二月天道根命に紀伊國を賜はり國造職に補せらる明治十年三月二十一日官命を以て日前國懸兩神宮攝社に定めらる。

攝社 中言神社

祭神 名草草姫命
名草彦命

御由緒

往古より境内に鎮座す國造家譜に曰く名草彦命は天道根命 第五代大名草彦命並大名草姫命を祀り中言社と称す名草郡の地主の神なり 故に郡村の神社に此神を祭る最も多し明治十年三月二十六日官命を以て日前國懸兩神宮攝社に定められ 地主の神として尊崇さる

一、境内末社 二十社

一、境内總坪數 約貳萬坪

祭儀

大祭

祀年祭 二月十七日
例祭 九月二十六日
新嘗祭 (新穀感謝祭) 十一月二十三日

中祭

歲旦祭 一月一日
元始祭 一月三日
紀元節祭 二月八日
御鎮座祭 四月二十三日
天長節祭 十二月二十三日

小祭

月次祭 毎月一日
成人祭 二月十五日
節分祭 二月二十日
大夏祭 六月三十日
夏夜祭 七月二十六日
除夜祭 十二月三十一日